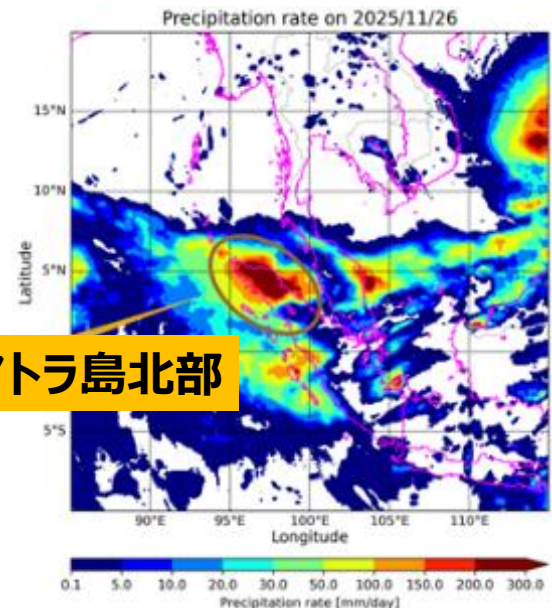
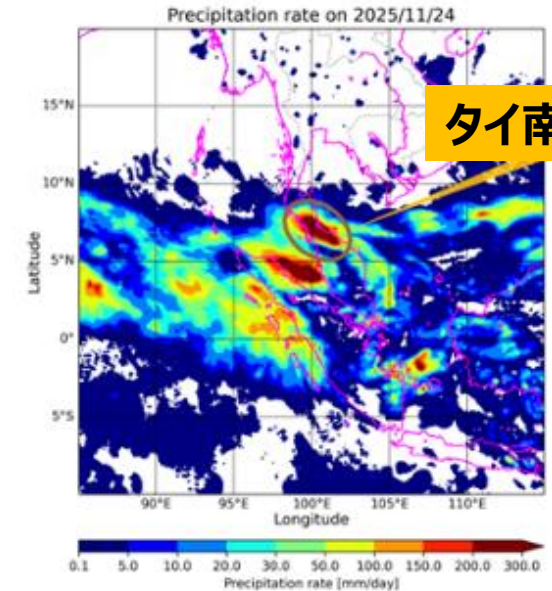


気候危機が現実となる中でも増え続けるCO₂

国名	総量(百万トン)	前年比
世界全体	37,800	+0.8%
中国	11,172	+2.0%
アメリカ	4,619	▲0.5%
インド	2,952	+5.0%
ロシア	1,681	+1.0%
EU	1,005	▲2.9%
日本	3,200	▲2.0%
ベトナム	334	+14.0%

東南アジアの洪水・土砂災害：被害概要(2025年11月)

項目	データ
主な発生期間	2025年11月中旬～下旬
主な影響要因	熱帯低気圧「セニャール」、モンスーン(季節風)の活発化
影響を受けた主要国	インドネシア、タイ、マレーシア、ベトナム、フィリピン (※スリランカ等南アジアも含む)
死者・行方不明者	複数の国で合計600人以上
被災者・影響人口	合計400万人以上
経済的損失	ベトナム中部で約5.22億米ドルの初期損失推定



気候変動対策は自主的から法規制に変化

これまで

削減の目標も対策も自主的に立てる
罰則もなく、成果に対しては風評をあげるという目的が大きかった。



これから

GX推進法の成立

GX-ETS(排出量取引制度)：キャップの設定(2026年度より)
有償枠の設定(2033年)

環境税の導入(2027年度)

金融庁

ISSBJの改正

時価総額によって順次、気候変動対策に対しての開示義務が発生(2026年度から)

重要なのになぜか関心が低い気候変動問題

気候変動問題の捉えられ方

2025年は大きく法改正もあり、大きな変化が訪れると各種講演などでも発表してきましたのですが…

一般のひと

1. 遠い未来の話し(時間軸)
2. 問題が大きすぎる(スケール、広さと深さ)

指導的な立場の人たち

- 官僚は危機感を持ちつつも、政治家にとっては票にならない話題。
- 経済界にとっても、コストがかかる話しであって儲からない話題。
- 学識にとっても、専門分野の学者が少ない分野。



ひとりの人間がなにか考えたり行動しても、何の影響も与えることができない。

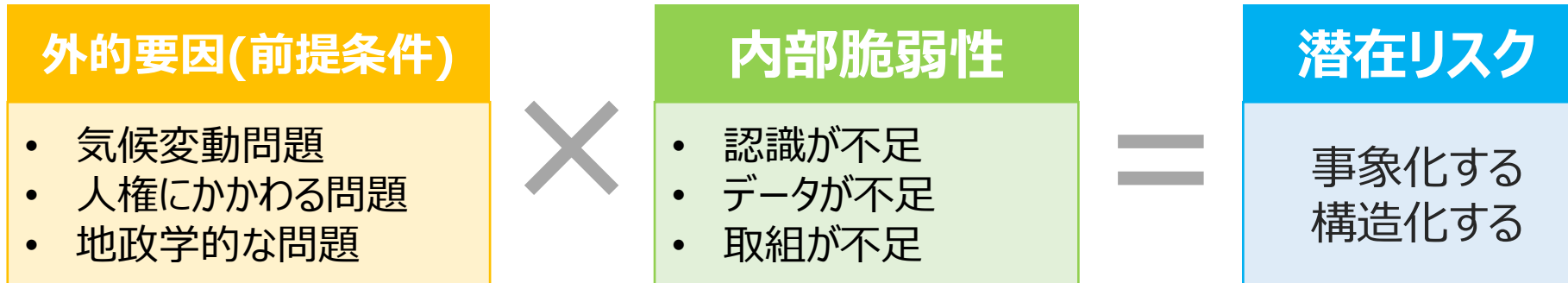
えらい人たちが考える話で、自分には関係がない。

リスクという言葉の使われ方

最近の“リスク”の使われ方… **取り組んでいるプロジェクトに関して、リターンの不確実性**



これからは、長期的な外的要因変化を前提として、その要因に対しての対策が出来ているか



気候変動対策がコスト一辺倒なのか、リターンを生み出すことができるのか？は考え方次第